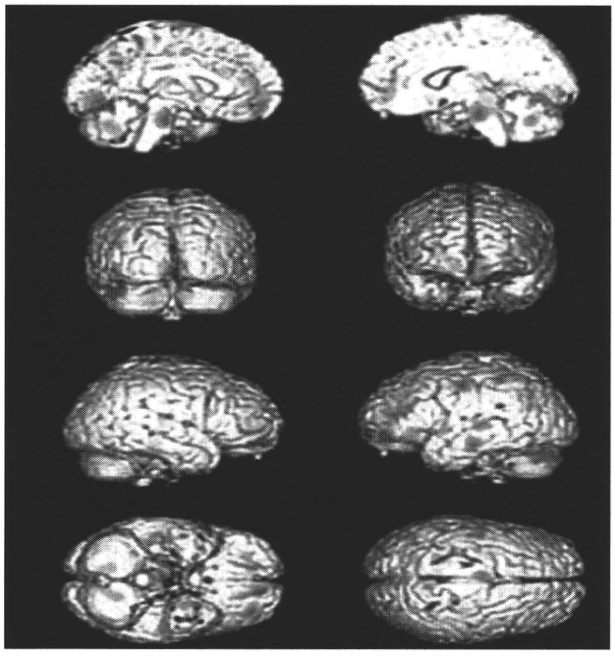
C. 研究結果

リチウム有効群は55%（N=5、男３名、年齢52.1歳±12.5歳）でリチウム無効群は45%（N=4、男２名、年齢 43.5±13.0 歳）であった。投与前のハミルトンうつ病評価尺度17項目は有効群22±6.0点、無効群21.0±6.2点で重症度に有意な差はなかった。

有効群と無効群での投与前のSPECT所見の差異では、有効群の方が眼窩前頭皮質、前部帯状回、背外側前頭前野などの左側前頭前野、左側頭葉皮質、脳幹の血流が高く（p<0.05）、特に左前頭前野では著明な差を認めた（P<0.01）【図３】。

【図 3】リチウム有効群のほうが投与前の脳血流が高い部位



D. 考察

SPECT 検査の問題は、絶対値での評価が困難であることや、疾患特異的な所見か状態特異的な所見か評価できないことから、世界各施設での報告が一致しにくいことである。しかしながら、うつ病の脳血流 SPECT 所見に関する報告を検討すると、前頭葉、側頭葉の血流低下については概ね一致している。

前頭葉については、頭部MRIにおいて患者での体積低下（約 7%）（Coffey, 1992）、重症度と相関する体積低下（Kumar, 1998）等の報告がある。脳血流では、前頭葉の血流低下、特に右と比較し左の前頭葉での低下が著しいという報告があり、これは我々が検証した左優位な前頭葉血流低下に一致する。特に注目すべきは、ドーパミン系関連部位で、うつ病の精神運動抑制や抑うつ気分に関与している可能性のある前頭前野背外側部である。うつ病患者における同部位の血流低下（Daniel J, 2005）の報告があり、また病理学的にうつ病で同部位の神経細胞、グリア細胞の減少（Rajkowska, 2001）が報告されている。今回の結果でも、同部位の血流低下を認めており、うつ状態を反映している可能性が高い。

今回の研究結果からは治療抵抗性うつ病において左前頭前野の血流低下所見が軽いほどリチウムで寛解しやすく、上記所見がリチウムの効果予測の指標となる可能性があることが示された。

E. 結論

リチウム投与前のSPECTにおいて有効群と無効群にわけて群間比較したところ、有効群の方が無効群より、眼窩前頭皮質、前部帯状回、背外側前頭前野などの左側前頭前野、左側頭葉皮質、脳幹の血流が高く、特に左前頭前野でその差が顕著であることが示された。これらの部位は我々が従来うつ病で健常群より低下すると報告した部位と一致し、特に左前頭前野の血流低下の度合いがリチウムの効果予測指標となる可能性が示唆された。

F. 研究発表

1. 論文／書籍発表

1) Sasayama D, Hori H, Teraishi T, Hattori K, Ota M, Matsuo J, Kawamoto Y, Kinoshita Y, Hashikura M, Koga N, Okamoto N, Sakamoto K, Higuchi T, Amano N, Kunugi H. Difference in Temperament and Character Inventory scores between depressed patients with bipolar II and unipolar major depressive disorders. Journal of Affective Disorders(In press)

2) Okamoto N, Furusawa Y, Sakamoto K, Yamamoto T, Kondo Y, Nagafusa Y, Higuchi T. Major depression: what caused the crisis? Lancet. 2010 23;375:346.

3) Okamoto N, Sakamoto K, Nagafusa Y, Ichikawa M, Nakai T, Higuchi T. Electroconvulsive Therapy as a Potentially Effective Treatment for Severe serotonin Syndrome. Two Case reports. Journal of Clinical Psychopharmacology. 2010 June; Volume30

(Epub ahead of print)

4) Okamoto N, Nakai T, Sakamoto K, Nagafusa Y, Higuchi T, Nishikawa T. Rapid Antidepressant Effect of Ketamine Anesthesia During Electroconvulsive Therapy of Treatment-Resistant Depression: Comparing Ketamine and Propofol Anesthesia. J ECT. 2009 Nov 19.
5) Okamoto N , Ogawa M, Murata Y, Sakamoto K, Nagai T, Higuchi T. Major Depressive Disorder Complicated with Spinocerebellar Ataxia: Report of 2 cases. Case Reports in Neurology(Impress)
6) 簗詰健太郎、岡本長久：うつ病治療の実際　最近のAugmentation療法：Depression Frontier. 8巻2号 65-71. 2010.
7) 岡本長久, 坂本広太：【最新うつ病のすべて】難治性うつ病への対応：別冊・医学のあゆみ, p89-99, 2010.
8) 岡本長久, 大柄昭子：うつ病の治療と援助：医療の広場No. 8, p. 4-10, 2009
9) 長房裕子, 岡本長久：急な躁転：精神科臨床サービス. 10巻1号38-40. 2010.
10) 岡本長久, 石原年幸, 玉浦明美：薬物治療・修正型電気けいれん療法抵抗性の病識欠如がclozapineにより軽減されblonanserin置換後も改善が持続したため長期入院からの地域移行が可能であった 1 症例：クロザピン症例集(臨床精神薬理)
11) 中林哲夫, 中村治雅, 岡本長久：本邦における国際共同治験の現状と課題　－抗うつ薬開発の最近の動向－：臨床精神薬理
12) 高橋晶, 伊藤ますみ, 岡崎光俊, 渡辺雅子, 元永悠介, 高木希奈, 長岡寛敦, 岡本長久, 朝田隆　統合失調症の経過中にspike-wave stuporを合併した 3 例：精神科治療学24 巻 8 号, p. 987-995, 2009.
13) 佐藤真由美, 岡本長久：抗うつ薬と電気けいれん療法の併用療法（Combination Therapy of Electroconvulsive Therapy and Antidepressants）：臨床精神薬理第12巻第02号, 2009
14) 岡本長久, 佐藤真由美, 中井哲慈：ケタミンと電気けいれん療法の併用による難治性うつ病の治療：depression frontier 2008.
15) 松田太郎, 長房裕子, 坂本広太, 岡本長久：双極性障害の心理療法：心療内科第 12 巻第 3 号, p. 192-202, 2008. 5.
16) 長房裕子, 岡本長久：うつ病～難治性うつ病の治療戦略～：Medicament News 第 1958 号, 2008. 10. 15
17) 功刀浩, 柳沢ひろみ, 田中美穂, 岡本洋平, 堀弘明, 橋本亮太, 中林哲夫, 岡本長久, 大森まゆ, 沢村香苗, 斎藤治, 樋口輝彦, 廣中直行：統合失調症とうつ病におけるプレパルスインヒビションと関連指標. 予備的報告：精神医学 49, 2007
18) 岡本長久：Star*D 研究から得られるもの：精神科治療学23巻　2007. 3.
19) 岡本長久：難治性うつ病への対応：医学の歩み 219, 955-962, 2006
20) 岡本長久：うつ病の薬物療法-最新の知見を踏まえて-：調剤と情報 686-691, 2006
21) 岡本長久：共著, うつ病 Q&A, 日本医事新報社, p. 122-145, 2009
22) 長房裕子, 共著, 岡本長久, 樋口輝彦：うつ病と不安障害の併存：Medical Tribune, 2008.
23) 岡本長久：共著, 躁うつ病治療の実際：躁うつ病はここまで分った, 日本評論者, p. 89-120, 2007
24) 岡本長久：共著, 電気けいれん療法：ＡＥＲＡＭＯＯＫ『新版　職場のうつ』, 朝日新聞社, 2007.
25) 岡本長久, 野田隆政:共著, 期待される新規抗うつ薬と併用療法：エビデンスに基づく難治性うつ病の治療. 新興医学出版社, 82-104, 2006.
26) 野田隆政, 岡本長久：共著, 電気けいれん療法：エビデンスに基づく難治性うつ病の治療, 新興医学出版社, 82-104, 2006.
27) 岡本長久, 共著, :統合失調症の疑問に答える本, 法研, 2004.
28) 岡本長久, 共著, :統合失調症がわかる本, 法研, 2002.

2. 学会／講演発表

2) M. Yamada, N. Okamoto, T. Nakai, K. Sakamoto, Y. Nagafusa, Rapid antidepressant effect of ketamine anesthesia during electroconvulsive therapy of

treatment-resistant depression: Open label trial comparing ketamine anesthesia and propofol anesthesia, CINP , Hong Kong, 2010. 6. 8.

3) 長房裕子, 坂本広太, 森崎洋平, 山田麻紀, 岡本長久, 「ECT 施行後, 著明な起立性低血圧の悪化を認めたコタール症候群を伴う大うつ病の 1 症例」, 日本精神神経学会総会, 広島, 2010 年 5 月 11 日.

4) 元永悠介, 坂本広太, 山田麻紀, 大町佳永, 岡本長久, 「成人期の広汎性発達障害に合併する大うつ病における寛解予測因子の後方視的研究」, 日本精神神経学会総会, 広島, 2010 年 5 月 11 日.

5) 山田麻紀, 坂本広太, 長房裕子, 森崎洋平, 岡本長久, 「ECT とパロキセチンの併用によるセトロニン症候群の誘発」, 日本精神神経学会総会, 広島, 2010 年 5 月 11 日.

6) 坂本広太, 長房裕子, 山田麻紀, 森崎洋平, 岡本長久, 「うつ症状を呈した重症筋無力症の 1 症例報告　うつ症状は大うつ病の合併か?重症筋無力症そのものに由来するか?」, 日本精神神経学会総会, 広島, 2010 年 5 月 11 日.

7) 松尾淳子, 木下裕紀子, 川本由実子, 須藤志保, 橋倉都, 堀弘明, 寺石俊也, 篠山大明, 服部功太郎, 尾関祐二, 有馬邦正, 石川正憲, 岡本長久, 樋口輝彦, 兼田康宏, 功刀浩, 「統合失調症患者とうつ病患者の認知機能に関する日本語版統合失調症認知機能簡易評価尺度(BACS-J)による検討」, 日本精神神経学会総会, 広島, 2010 年 5 月 11 日.

8) 川本由実子, 松尾淳子, 橋倉都, 木下裕紀子, 須藤志保, 堀弘明, 寺石俊也, 篠山大明, 服部功太郎, 尾関祐二, 有馬邦正, 石川正憲, 岡本長久, 樋口輝彦, 功刀浩, 「統合失調症患者の運動機能障害に関するペグボードと握力検査による検討」, 日本精神神経学会総会, 広島, 2010. 5. 11.

9) 長房裕子, 山下典生, 佐藤真由美, 坂本広太, 岡本長久「うつ病における SPECT 所見の検討～罹病期間との関連～」, 日本心身医学会, 2008, 札幌

10) 松田太郎, 長房裕子, 坂本広太, 岡本長久　日本心身医学会総会　「セロトニン症候群に m-ECT が奏効した二例」, 日本心身医学会, 2008, 札幌

11) 堀弘明, 沢村香苗, 橋倉都, 尾関祐二, 岡本長久, 大森まゆ, 樋口輝彦, 功刀浩「DEX/CRH テストにおける過抑制とストレスとの関連.」 第 27 回躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会, 箱根, 2008.

12) 堀弘明, 沢村香苗, 橋倉都, 尾関祐二, 岡本長久, 大森まゆ, 寺田純雄, 樋口輝彦, 功刀浩「DEX/CRH テストにおける過抑制とストレスとの関連」 第 51 回日本神経化学会大会＆第 30 回日本生物学的精神医学会, 富山, 2008.

13) 市川亮, 坂本広大, 佐藤真由美, 岡本長久, 「SSRI 誘発性重症・遷延型セロトニン症候群に mECT が奏効した一例」 東京精神医学会. 2007 年 6 月, 東京

14) 牧安紀, 市川亮, 元永悠介, 坂本広太, 岡本長久, 佐藤真由美, 樋口輝彦, 「診断に難渋した遷延性抑うつ状態の一例」 東京精神医学会. 2007 年 6 月, 東京

15) 堀弘明, 沢村香苗, 岡本長久, 大森まゆ, 樋口輝彦, 功刀浩:「外来うつ病, 一般成人におけるストレスと DEX/CRH テスト」, 生物学的精神医学会, 2007 年 7 月(, 札幌

16) 市川亮, 坂本広太, 牧安紀, 元永悠介, 佐藤真由美, 岡本長久 :「ビデオを用いた修正型電気痙攣療法の説明を行って～患者の mECT のイメージの評価」, 第 103 回日本精神神経学会総会, 2007 年 5 月, 高知

17) 岡本長久, 佐藤真由美, 坂本広太, 長房裕子, 森崎洋平, 伊藤暢厚, 中井哲滋, 「うつ病における修正型電気けいれん療法の術中麻酔薬の差異の検討～ケタミン麻酔およびプロポホール麻酔とのオープン試験による比較～」, 第 103 回日本精神神経学会総会, 2007 年 5 月, 高知

18) 長房裕子, 佐藤真由美, 山下典生, 森崎洋平, 伊藤暢厚, 坂本広太, 岡本長久, 「うつ病における疾患特異的 SPECT 所見の検討」, 第 103 回日本精神神経学会総会, 2007 年 5 月, 高知

19) 岡本長久 : 市民公開講座「ともに支えあう地域づくりをめざして～楽に生きるためのヒント～」, 小平地域精神保健福祉業務連絡会,

小平市中央公民館ホール（東京），2009 年 11 月 28 日

20) 岡本長久：ＯＴ・ＰＴ協議会「うつを知る」，ＯＴ・ＰＴ協議会，東京病院（東京）2009 年 9 月 12 日

21) 岡本長久：市民公開講座「うつってなぁに？」，国立精神神経センター，国立精神神経センターコスモホール（東京），2009 年 5 月 26 日

22) 岡本長久：「ケタミンと ECT の併用による難治性うつ病の治療」，多摩精神科懇話会，立川パレスホテル（東京），2009 年 1 月 23 日

23) 岡本長久：市民公開講座「職場のうつ」，平成 20 年度厚生労働省こころの健康科学研究推進事業研究成果啓発事業，梅田スカイビルホール（大阪）2008 年 10 月 19 日

24) 岡本長久：「成人期に出会う広汎性発達障害」 政策医療ネットワーク精神疾患研修会，国立精神神経センターコスモホール（東京），2007 年 2 月 9 日

25) 岡本長久：「双極性障害治療の実際」，NPO 不安・抑うつ臨床研究会主催第 13 回都民講演会，早稲田大学国際会議場ホール（東京），2007 年 2 月 4 日

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得　該当なし。
2. 実用新案登録　該当なし。
3. その他　該当なし。

研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sasayama D, Hori H, Teraishi T, Hattori K, Ota M, Matsuo J, Kawamoto Y, Kinoshita Y, Hashikura M, Koga N, Okamoto N, Sakamoto K, Higuchi T, Amano N, Kunugi H.	Difference in Temperament and Character Inventory scores between depressed patients with bipolar II and unipolar major depressive disorders.	Journal of Affective Disorders	in press		2011
Kushima, I., Y. Nakamura, B. Aleksic, M. Ikeda, Y. Ito, T. Shiino, T. Okochi, Y. Fukuo, H. Ujike, M. Suzuki, T. Inada, R. Hashimoto, M. Takeda, K. Kaibuchi, N. Iwata, and N. Ozaki	Resequencing and Association Analysis of the KALRN and EPHB1 Genes And Their Contribution to Schizophrenia Susceptibility	Schizophr Bull	in press		2011
Kishi T, Okochi T, Tsunoka T, Okumura T, Kitajima T, Kawashima K, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Naitoh H, Inada T, Kunugi H, Kato T, Yoshikawa T, Ujike H, Ozaki N, Iwata N	Serotonin 1A receptor gene, schizophrenia and bipolar disorder: An association study and meta-analysis.	PsychiatryRes	185 (1-2)	20-6	2011
Kishi T, Fukuo Y, Okochi T, Kitajima T, Kawashima K, Naitoh H, Ujike H, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Iwata N	Serotonin 6 receptor gene is associated with methamphetamine-induced psychosis in a Japanese population.	Drug Alcohol Depend	113 (1)	1-7	2011
Yoshimi A, Aleksic B, Kawamura Y, Takahashi N, Yamada S, Usui H, Saito S, Ito Y, Iwata N, Inada T, Noda Y, Yamada K, Ozaki N	Gene-wide association study between the methylenetetrahydrofolate reductase gene (MTHFR) and schizophrenia in the Japanese population, with an updated meta-analysis on currently available data.	Schizophr Res	124 (1-3)	216-22	2010
Yazaki S, Koga M, Ishiguro H, Inada T, Ujike H, Itokawa M, Otowa T, Watanabe Y, Someya T, Iwata N, Kunugi H, Ozaki N, Arinami T	An association study between the dymeclin gene and schizophrenia in the Japanese population.	J Hum Genet	55 (9)	631-4	2010
Tsunoka T, Kishi T, Kitajima T, Okochi T, Okumura T, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Kawashima K, Naitoh H, Inada T, Ujike H, Yamada M, Uchimura N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Iwata N	Association analysis of GRM2 and HTR2A with methamphetamine-induced psychosis and schizophrenia in the Japanese population.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	34 (4)	639-44	2010

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tomida K, Takahashi N, Saito S, Maeno N, Iwamoto K, Yoshida K, Kimura H, Iidaka T, Ozaki N	Relationship of psychopathological symptoms and cognitive function to subjective quality of life in patients with chronic schizophrenia.	Psychiatry Clin Neurosci	64 (1)	62-9	2010
Takahashi M, Hayashi H, Watanabe Y, Sawamura K, Fukui N, Watanabe J, Kitajima T, Yamanouchi Y, Iwata N, Mizukami K, Hori T, Shimoda K, Ujike H, Ozaki N, Iijima K, Takemura K, Aoshima H, Someya T	Diagnostic classification of schizophrenia by neural network analysis of blood-based gene expression signatures.	Schizophr Res	119 (1-3)	210-218	2010
Syu A, Ishiguro H, Inada T, Horiuchi Y, Tanaka S, Ishikawa M, Arai M, Itokawa M, Niizato K, Iritani S, Ozaki N, Takahashi M, Kakita A, Takahashi H, Nawa H, Keino-Masu K, Arikawa-Hirasawa E, Arinami T	Association of the HSPG2 gene with neuroleptic-induced tardive Dyskinesia.	Neuropsychopharmacology	35 (5)	1155-64	2010
Okuda A, Kishi T, Okochi T, Ikeda M, Kitajima T, Tsunoka T, Okumukura T, Fukuo Y, Kinoshita Y, Kawashima K, Yamanouchi Y, Inada T, Ozaki N, Iwata N	Translin-associated factor X gene (TSNAX) may be associated with female major depressive disorder in the Japanese population.	Neuromolecular Med	12 (1)	78-85	2010
Ohi K, Hashimoto R, Yasuda Y, Yoshida T, Takahashi H, Iike N, Iwase M, Kamino K, Ishii R, Kazui H, Fukumoto M, Takamura H, Yamamori H, Azechi M, Ikezawa K, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Yamada K, Numata S, Ikeda M, Tanaka T, Kudo T, Ueno S, Yoshikawa T, Ohmori T, Iwata N, Ozaki N, Takeda M	The chitinase 3-like 1 gene and schizophrenia: evidence from a multi-center case-control study and meta-analysis.	Schizophr Res	116 (2-3)	126-32	2010
Nunokawa A, Watanabe Y, Kaneko N, Sugai T, Yazaki S, Arinami T, Ujike H, Inada T, Iwata N, Kunugi H, Sasaki T, Itokawa M, Ozaki N, Hashimoto R, Someya T	The dopamine D3 receptor (DRD3) gene and risk of schizophrenia: case-control studies and an updated meta-analysis.	Schizophr Res	116 (1)	61-7	2010

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Noda Y, Mouri A, Ando Y, Waki Y, Yamada SN, Yoshimi A, Yamada K, Ozaki N, Wang D, Nabeshima T	Galantamine ameliorates the impairment of recognition memory in mice repeatedly treated with methamphetamine: involvement of allosteric potentiation of nicotinic acetylcholine receptors and dopaminergic-ERK1/2 systems.	Int J Neuropsychopharmacol	13 (10)	1343-54	2010
Morikawa T, Manabe T, Ito Y, Yamada S, Yoshimi A, Nagai T, Ozaki N, Mayeda A	The expression of HMGA1a is increased in lymphoblastoid cell lines from schizophrenia patients.	Neurochem Int	56 (6-7)	736-9	2010
Kushima I, Aleksic B, Ito Y, Nakamura Y, Nakamura K, Mori N, Kikuchi M, Inada T, Kunugi H, Nanko S, Kato T, Yoshikawa T, Ujike H, Suzuki M, Iwata N, Ozaki N	Association study of ubiquitin-specific peptidase 46 (USP46) with bipolar disorder and schizophrenia in a Japanese population.	J Hum Genet	55 (3)	133-6	2010
Kushima I, Aleksic B, Ikeda M, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Ito Y, Nakamura Y, Inada T, Iwata N, Ozaki N	Association study of bromodomain-containing 1 gene with schizophrenia in Japanese population.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet	153B (3)	786-91	2010
Kishi T, Tsunoka T, Ikeda M, Kitajima T, Kawashima K, Okochi T, Okumura T, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Ujike H, Inada T, Yamada M, Uchimura N, Sora I, Iyo M, Ozaki N, Iwata N	Serotonin 1A receptor gene is associated with Japanese methamphetamine-induced psychosis patients.	Neuropharmacology	58 (2)	452-6	2010
Iwayama Y, Hattori E, Makekawa M, Yamada K, Toyota T, Ohnishi T, Iwata Y, Tsuchiya KJ, Sugihara G, Kikuchi M, Hashimoto K, Iyo M, Inada T, Kunugi H, Ozaki N, Iwata N, Nanko S, Iwamoto K, Okazaki Y, Kato T, Yoshikawa T	Association analyses between brain-expressed fatty-acid binding protein (FABP) genes and schizophrenia and bipolar disorder.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet	153B (2)	484-493	2010
Ishiguro H, Koga M, Horiuchi Y, Noguchi E, Morikawa M, Suzuki Y, Arai M, Niizato K, Iritani S, Itokawa M, Inada T, Iwata N, Ozaki N, Ujike H, Kunugi H, Sasaki T, Takahashi M, Watanabe Y, Someya T, Kakita A, Takahashi H, Nawa H, Arinami T	Supportive evidence for reduced expression of GNB1L in schizophrenia.	Schizophr Bull	36 (4)	756-65	2010

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishiguro H, Horiuchi Y, Ishikawa M, Koga M, Imai K, Suzuki Y, Morikawa M, Inada T, Watanabe Y, Takahashi M, Someya T, Ujike H, Iwata N, Ozaki N, Onaivi ES, Kunugi H, Sasaki T, Itokawa M, Arai M, Niizato K, Iritani S, Naka I, Ohashi J, Kakita A, Takahashi H, Nawa H, Arinami T	Brain cannabinoid CB2 receptor in schizophrenia.	Biol Psychiatry	67 (10)	974-82	2010
Iritani S, Sekiguchi H, Habuchi C, Torii Y, Yamada S, Waki Y, Noda Y, Furukawa H, Nabeshima T, Ozaki N	Immunohistochemical study of vesicle monoamine transporter 2 in the hippocampal formation of PCP-treated mice.	Neurosci Res	68 (2)	125-30	2010
Iritani S, Sekiguchi H, Habuchi C, Hikita T, Taya S, Kaibuchi K, Ozaki N	Immunohistochemical study of vesicle monoamine transporter 2 in the hippocampal region of genetic animal model of schizophrenia.	Synapse	64 (12)	948-53	2010
Ikeda M, Tomita Y, Mouri A, Koga M, Okochi T, Yoshimura R, Yamanouchi Y, Kinoshita Y, Hashimoto R, Williams HJ, Takeda M, Nakamura J, Nabeshima T, Owen MJ, O'Donovan MC, Honda H, Arinami T, Ozaki N, Iwata N	Identification of novel candidate genes for treatment response to risperidone and susceptibility for schizophrenia: integrated analysis among pharmacogenomics, mouse expression, and genetic case-control association approaches.	Biol Psychiatry	67 (3)	263-9	2010
Ikeda M, Aleksic B, Kirov G, Kinoshita Y, Yamanouchi Y, Kitajima T, Kawashima K, Okochi T, Kishi T, Zaharieva I, Owen MJ, O'Donovan MC, Ozaki N, Iwata N	Copy number variation in schizophrenia in the Japanese population.	Biol Psychiatry	67 (3)	283-6	2010
Hashimoto R, Noguchi H, Hori H, Nakabayashi T, Suzuki T, Iwata N, Ozaki N, Kosuga A, Tatsumi M, Kamijima K, Harada S, Takeda M, Saitoh O, Kunugi H	A genetic variation in the dysbindin gene (DTNBP1) is associated with memory performance in healthy controls.	World J Biol Psychiatry	11 (2 Pt 2)	431-8	2010
Hashimoto R, Hashimoto H, Shintani N, Ohi K, Hori H, Saitoh O, Kosuga A, Tatsumi M, Iwata N, Ozaki N, Kamijima K, Baba A, Takeda M, Kunugi H	Possible association between the pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) gene and major depressive disorder.	Neurosci Lett	468 (3)	300-2	2010

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Fukuo Y, Kishi T, Okochi T, Kitajima T, Tsunoka T, Okumukura T, Kinoshita Y, Kawashima K, Yamanouchi Y, Umene-Nakano W, Naitoh H, Inada T, Yoshimura R, Nakamura J, Ozaki N, Iwata N	Lack of Association Between MAGEL2 and Schizophrenia and Mood Disorders in the Japanese Population.	Neuromolecular Med	12 (3)	285-91	2010
Okamoto N , Ogawa M, Murata Y, Sakamoto K, Nagai T, Higuchi T.	Major Depressive Disorder Complicated with Spinocerebellar Ataxia: Report of 2 cases.	Case Rep in Neurology		52-56	2010
Ikeda, M., B. Aleksic, Y. Kinoshita, T. Okochi, K. Kawashima, I. Kushima, Y. Ito, N. Nakamura, T. Kishi, T. Okumura, Y. Fukuo, H.J. Williams, M. Hamshere, D. Ivanov, T. Inada, M. Suzuki, R. Hashimoto, H. Ujike, M. Takeda, N. Craddock, K. Kaibuchi, M. Owen, J., N. Ozaki, C. O'Donovan M, and N. Iwata	Genome-wide association study of schizophrenia in a Japanese population	Biol Psychiatry	69(5)	472-478	2011
Nihonmatsu-Kikuchi N, Hashimoto R, Hattori S, Matsuzaki S, Shinozaki T, Miura H, Ohota S, Tohyama M, Takeda M, Tatebayashi Y.	Reduced Rate of Neural Differentiation in the Dentate Gyrus of Adult Dysbindin Null (Sandy) Mouse.	PLoS One	18;6(1)	e15886	2011
Takeda M, Martinez R, Kudo T, Tanaka T, Okochi M, Tagami S, Morihara T, Hashimoto R, Cacabelos R.	Apolipoprotein E and central nervous system disorders: reviews of clinical findings.	Psychiatry Clin Neurosci.	64(6)	592-607	2010
Hashimoto R, Ohi K, Yasuda Y, Fukumoto M, Iwase M, Iike N, Azechi M, Ikezawa K, Takaya M, Takahashi H, Yamamori H, Okochi T, Tanimukai H, Tagami S, Morihara T, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kazui H, Iwata N, Takeda M.	The Impact of a Genome-Wide Supported Psychosis Variant in the ZNF804A Gene on Memory Function in Schizophrenia.	Am J Med Genet B Neuropsychiatry Genet,	153B(8)	1459-1464,	2010
Delawary M, Tezuka T, Kiyama Y, Yokoyama K, Inoue T, Hattori S, Hashimoto R, Umemori H, Manabe T, Yamamoto T, Nakazawa T.	NMDAR2B tyrosine phosphorylation regulates anxiety-like behavior and CRF expression in the amygdala.	Mol Brain.	3(1)	37	2010

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hayashi N, Kazui H, Kamino K, Tokunaga H, Takaya M, Yokokoji M, Kimura R, Kito Y, Wada T, Nomura K, Sugiyama H, Yamamoto D, Yoshida T, Currais A, Soriano S, Hamasaki T, Yamamoto M, Yasuda Y, Hashimoto R, Tanimukai H, Tagami S, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Morihara T, Takeda M.	KIBRA genetic polymorphism influences episodic memory in Alzheimer's disease, but does not show association with disease in a Japanese cohort.	Dement Geriatr Cogn Disord.	30(4)	302-308	2010
Takebayashi M, Hashimoto R, Hisaoka K, Tsuchioka M, Kunugi H.	Plasma levels of vascular endothelial growth factor (VEGF) and fibroblast growth factor 2 (FGF-2) in patients with major depressive disorders.	JNeural Transm.	117(9)	1119-1122	2010
Mori K, Okochi M, Tagami S, Nakayama T, Yanagida K, Kodama T, Tatsumi S, Fujii K, Tanimukai H, Hashimoto R, Morihara T, Tanaka T, Kudo T, Funamoto S, Ihara Y, Takeda M.	The production ratios of AICDε51 and Aß42 by intramembrane proteolysis of ßAPP do not always change in parallel.	Psychogeriatrics,	10(3)	117-123	2010
Numata S, Nakataki M, Iga J, Tanahashi T, Nakadoi Y, Ohi K, Hashimoto R, Takeda M, Itakura M, Ueno S, Ohmori T.	Association study between the pericentrin (PCNT) gene and schizophrenia.	Neuromolecular Med,	12(3)	243-247	2010
Yasuda Y, Hashimoto R, Ohi K, Fukumoto M, Takamura H, Iike N, Kiribayashi M, Yoshida T, Hayashi N, Takahashi H, Yamamori H, Morihara T, Tagami S, Okochi M, Tanaka T, Kudo T, Kamino K, Ishii R, Iwase M, Kazui H, Takeda M.	Association study of KIBRA gene with memory performance in a Japanese population.	World J Biol Psychiatry	11(7)	852-857	2010
Takahashi H, Iwase M, Canuet L, Yasuda Y, Ohi K, Fukumoto M, Iike N, Nakahachi T, Ikezawa K, Azechi M, Kurimoto R, Ishii R, Yoshida T, Kazui H, Hashimoto R, Takeda M.	Relationship between prepulse inhibition of acoustic startle response and schizotypy in healthy Japanese subjects.	Psychophysiology,	47(5)	831-837	2010

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Koide T, Aleksic B, Ito Y, Usui H, Yoshimi A, Inada T, Suzuki M, Hashimoto R, Takeda M, Iwata N, Ozaki N.	A two-stage case-control association study of the dihydropyrimidinase-like 2 gene (DPYSL2) with schizophrenia in Japanese subjects.	J Hum Genet.	55(7)	469-472	2010
Takeda M, Hashimoto R, Kudo T, Okochi M, Tagami S, Morihara T, Sadick G, Tanaka T.	Laughter and humor as complementary and alternative medicines to dementia patients.	BMC Complement Altern Med,	10(1)	28	2010
Fukuda S, Hashimoto R, Ohi K, Yamaguti K, Nakatomi Y, Yasuda Y, Kamino K, Takeda M, Tajima S, Kuratsune H, Nishizawa Y, Watanabe Y.	A functional polymorphism in the disrupted-in schizophrenia 1 gene is associated with chronic fatigue syndrome.	Life Sci	86 (19-20)	722-725	2010
Amagane H, Watanabe Y, Kaneko N, Nunokawa A, Muratake T, Ishiguro H, Arinami T, Ujike H, Inada T, Iwata N, Kunugi H, Sasaki T, Hashimoto R, Itokawa M, Ozaki N, Someya T.	Failure to find an association between myosin heavy chain 9, non-muscle (MYH9) and schizophrenia: a three-stage case-control association study.	Schizophr Res	118(1-3)	106-112	2010
Schulze T, Alda M, Adli M, Akula N, Ardau R, Chillotti C, Cichon S, Czerski P, Zompo M, SDetera-Wadleigh S, Grof P, Gruber O, Hashimoto R, Hauser J, Hoban R, Iwata N, Kassem L, Kato T, Kittel-Schneider S, Kliwicki S, Kelsoe J, Kusumi I, Laje G, Leckband S, Manchia M, MacQueen G, Masui T, Ozaki N, Perlis R, Pfennig A, Piccardi P, Richardson S, Rouleau G, Reif A, Rybakowski J, Sasse J, Schumacher J, Severino G, Smoller J, Squassina A, Turecki G, Young T, Yoshikawa T, Bauer M, McMahon F.	The International Consortium on Lithium Genetics (ConLiGen): An Initiative by the NIMH and IGSLI to Study the Genetic Basis of Response to Lithium Treatment,	Neuropsychobiology,	62(1)	72-78	2010
Ohnuma T, Shibata N, Baba H, Ohi K, Yasuda Y, Nakamura Y, Okochi T, Naitoh H, Hashimoto R, Iwata N, Ozaki N, Takeda M, Arai H.	No association between DAO and schizophrenia in a Japanese patient population: A multicenter replication study.	Schizophr Res	118(1-3)	300-302	2010

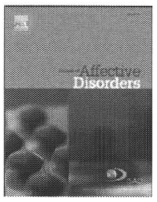
発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Aleksic B, Kushima I, Ito Y, Nakamura Y, Ujike H, Suzuki M, Inada T, Hashimoto R, Takeda M, Iwata N, Ozaki N.	Genetic association study of KREMEN1 and DKK1 and schizophrenia in a Japanese population.	Schizophr Res	118(1-3)	113-117	2010
Munesue T, Yokoyama S, Nakamura K, Anitha A, Yamada K, Hayashi K, Asaka T, Liu HX, Jin D, Koizumi K, Islam MS, Huang JJ, Ma WJ, Kim UH, Kim SJ, Park K, Kim D, Kikuchi M, Ono Y, Nakatani H, Suda S, Miyachi T, Hirai H, Salmina A, Pichugina YA, Soumarokov AA, Takei N, Mori N, Tsujii M, Sugiyama T, Yagi K, Yamagishi M, Sasaki T, Yamasue H, Kato N, Hashimoto R, Taniike M, Hayashi Y, Hamada J, Suzuki S, Ooi A, Noda M, Kamiyama Y, Kido MA, Lopatina O, Hashii M, Amina S, Malavasi F, Huang EJ, Zhang J, Shimizu N, Yoshikawa T, Matsushima A, Minabe Y, Higashida H.	Two genetic variants of CD38 in subjects with autism spectrum disorder and controls.	Neurosci Res	67	181-191	2010
簗詰健太郎、岡本長久	うつ病治療の実際 最近のAugmentation療法：	Depression Frontier.	8；2	65-71	2010
岡本長久、坂本広太	【最新うつ病のすべて】難治性うつ病への対応	別冊・医学のあゆみ		89-99	2010

ARTICLE IN PRESS
JAD-04931; No of Pages 6
Journal of Affective Disorders xxx (2011) xxx–xxx

Contents lists available at ScienceDirect

Journal of Affective Disorders

journal homepage: www.elsevier.com/locate/jad



Research report

Difference in Temperament and Character Inventory scores between depressed patients with bipolar II and unipolar major depressive disorders

Daimei Sasayama [a,b,*], Hiroaki Hori [a], Toshiya Teraishi [a], Kotaro Hattori [a], Miho Ota [a], Junko Matsuo [a], Yumiko Kawamoto [a], Yukiko Kinoshita [a], Miyako Hashikura [a], Norie Koga [a], Nagahisa Okamoto [c], Kota Sakamoto [c], Teruhiko Higuchi [d], Naoji Amano [b], Hiroshi Kunugi [a,e]

[a] Department of Mental Disorder Research, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, 4-1-1, Ogawahigashi, Kodaira, Tokyo, 187-8502, Japan
[b] Department of Psychiatry, Shinshu University School of Medicine, Japan
[c] National Center Hospital, National Center of Neurology and Psychiatry, Japan
[d] National Center of Neurology and Psychiatry, Japan
[e] JST, CREST, Japan

ARTICLE INFO

Article history:
Received 24 January 2011
Received in revised form 4 February 2011
Accepted 2 March 2011
Available online xxxx

Keywords:
Unipolar depression
Bipolar disorder
Personality
Differential diagnosis

ABSTRACT

Background: Although some core personality variables are known to be characteristic of unipolar or bipolar depression, few studies have compared the personality profile between these two disorders.
Methods: Temperament and Character Inventory (TCI) was employed to assess the personality of 36 depressed patients with bipolar II disorder (BPII), 90 patients with unipolar major depressive disorder (UP), and 306 healthy controls. The TCI was administered during the depressive episode in BPII and UP patients so that the results can be applied in a clinical setting.
Results: Significantly higher scores in harm avoidance ($p<0.0001$) and lower scores in self-directedness ($p<0.0001$) and cooperativeness ($p<0.05$) were observed in both BPII and UP patients compared to controls. Lower novelty seeking in UP patients compared to BPII patients and controls was observed in females ($p<0.0001$, $p<0.01$, respectively). A significant difference in self-transcendence score was observed between BPII and UP patients in females ($p<0.0005$), with higher scores in BPII ($p=0.009$) and lower scores in UP ($p=0.046$) patients compared to controls. A logistic regression model predicted BPII in depressed females based on novelty seeking and self-transcendence scores with a sensitivity of 89% and a specificity of 73%, but did not accurately predict BPII in males.
Limitations: Patients in our study were limited to those receiving outpatient treatments, and bipolar patients were limited to those with BPII.
Conclusions: Novelty seeking and self-transcendence scores of TCI might be useful in the differentiation of UP and BPII in female patients.

1. Introduction

Differentiating unipolar and bipolar depression is of great clinical importance since the treatment of the two disorders differs substantially. However, the differentiation may be difficult due to the similar depressive symptomatology in these two disorders. One study reported that 69% of bipolar disorder (BP) had been misdiagnosed, with the most frequent

* Corresponding author at: Department of Mental Disorder Research, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, 4-1-1, Ogawahigashi, Kodaira, Tokyo, 187-8502, Japan. Tel.: +81 42 341 2712x5132; fax: +81 42 346 1744.
E-mail address: sasayama@shinshu-u.ac.jp (D. Sasayama).

0165-0327/$ – see front matter © 2011 Elsevier B.V. All rights reserved.
doi:10.1016/j.jad.2011.03.009

misdiagnosis being unipolar depression (Hirschfeld et al., 2003). Some clinical characteristics such as hypersomnia and psychotic features have been suggested to be more common in bipolar depression than in unipolar depression (Forty et al., 2008; Mitchell et al., 2001). However, there are no clear-cut clinical features that distinguish the two disorders, and clinicians must use all available information to predict the possibility of bipolarity in depressed patients.

A few studies have attempted to examine differences in personality between unipolar and bipolar depression. Two studies (Mendlowicz et al., 2005; Nowakowska et al., 2005) used the Temperament Evaluation of Memphis, Pisa, Paris, and San Diego-Autoquestionnaire (TEMPS-A) and found that cyclothymic subscale score was significantly elevated in BP patients. Another study (Lovdahl et al., 2010), which used Temperament and Character Inventory (TCI) (Cloninger et al., 1993) to compare bipolar II disorder (BPII) with recurrent brief depression (RBD; defined as intermittent depressive episodes fulfilling the diagnostic criteria for major depressive episodes except for duration, which is less than 14 days), failed to find definitive difference between the two disorders. Evans, et al. (Evans et al., 2005) used both TEMPS-A and TCI to find higher dysthymic, cyclothymic, irritable, anxious, and novelty seeking temperaments and lower self-directedness and cooperativeness characters in BP patients. A study using a battery including 17 conventional personality scales has reported sanguine in patients with bipolar I disorder, labile or cyclothymic in patients with BPII, and subanxious and subdepressive in patients with unipolar depression (Akiskal et al., 2006).

Although above studies report a number of findings showing different personality in UP and BP patients, few have assessed the personality of the two disorders during depressive state (Mendlowicz et al., 2005). Since the severity of depressive symptoms impact on how the subject describes their personality (Spittlehouse et al., 2010), it is important that the mood state at the time of assessment is taken into account. If the personality assessment is to be used as an aid for differentiating unipolar and bipolar depression in the real world setting, studies are required to compare personality measures during depressed mood.

In the present study, TCI was used to assess the personality difference between depressed BPII and UP patients. TCI is a 240 item true/false questionnaire measuring four dimensions of temperament (novelty seeking (NS), harm avoidance (HA), reward dependence (RD), and persistence (P)) and three dimensions of character (self-directedness (SD), cooperativeness (C), and self-transcendence (ST)), developed on the basis of a psychobiological model of personality. Although TCI has been frequently used in the studies of mood disorders (Akiskal et al., 2005; Celikel et al., 2009; de Winter et al., 2007; Engstrom et al., 2004; Farmer et al., 2003; Hansenne et al., 1999; Hirano et al., 2002; Kimura et al., 2000; Loftus et al., 2008; Marijnissen et al., 2002; Matsudaira and Kitamura, 2006; Naito et al., 2000; Richter et al., 2000; Smith et al., 2005), no studies to date have compared TCI score profiles of patients with unipolar and bipolar depression during their depressed states. We aimed to identify personality profiles specific to either unipolar or bipolar depression, which could aid in the differentiation of the two disorders.

2. Methods

2.1. Subjects

Subjects were 36 patients with BPII (18 men, 18 women; age ± S.D. (standard deviation) = 36.3 ± 11.1 years), 90 patients with UP (45 men, 45 women; age ± S.D. = 36.7 ± 10.2 years), and 306 healthy volunteers (153 men, 153 women; age ± S.D. = 36.4 ± 11.0 years), matched for age distribution in each gender group, recruited from the outpatient clinic of the National Center of Neurology and Psychiatry Hospital, Tokyo, Japan or through advertisements in local free magazines, website announcement, notices posted in the hospital, flyers, and word of mouth. Consensus diagnoses by at least two research psychiatrists were made according to the DSM-IV criteria (American Psychiatric Association, 1994) for BPII or UP for enrollment in the study. Those recruited from the outpatient clinic (BPII: 24 patients (67%); UP: 66 patients (73%)) were also assessed with the Structured Clinical Interview for DSM-IV by a trained psychiatrist to confirm the diagnosis. BPII and UP patients with Hamilton Rating Scale for Depression (17-item version) score greater than 7 were enrolled in the study. Healthy participants were interviewed using the Japanese version of the Mini-International Neuropsychiatric Interview (Otsubo et al., 2005; Sheehan et al., 1998) by a research psychiatrist, and only those who demonstrated no history of psychiatric illness or contact to psychiatric services were enrolled as healthy controls. Participants were excluded from both the patient and control groups if they had a prior medical history of central nervous system disease or severe head injury, or if they met DSM-IV criteria for mental retardation, substance dependence, or substance abuse. All subjects were biologically unrelated Japanese who resided in the Western part of Tokyo. Written informed consent was obtained from all subjects prior to their inclusion in the study and the study was approved by the ethics committee of the National Center of Neurology and Psychiatry, Japan.

2.2. Measures

All participants were administered the TCI (Cloninger et al., 1993), a 240 item true/false self-report questionnaire measuring four dimensions of temperament and three dimensions of character. The Japanese version of the TCI (Kijima et al., 1996; Kijima et al., 2000) was used in the present study. Each subject was allowed to take as much time as needed to complete the questionnaire. Depressive symptoms were assessed by an experienced research psychiatrist using the Japanese version of the GRID Hamilton Rating Scale for Depression, 17-item version (HDRS) (Hamilton, 1967), which has been demonstrated to show excellent inter-rater reliability (Tabuse et al., 2007).

2.3. Statistical analyses

Gender differences concerning the temperament and the character dimensions have been reported previously (Gutierrez-Zotes et al., 2004; Hansenne et al., 2005; Pelissolo and Lepine, 2000), and thus is one of the major potential confounding factors

Please cite this article as: Sasayama, D., et al., Difference in Temperament and Character Inventory scores between depressed patients with bipolar II and unipolar major depressive disorders, J. Affect. Disord. (2011), doi:10.1016/j.jad.2011.03.009

in TCI studies. Therefore, the data for male and female subjects were analyzed separately to avoid gender-dependent influence.

Statistical differences of demographic data among groups were evaluated by the chi-squared test for categorical variables and one-way analysis of variance (ANOVA) for continuous variables. Student t-test was used for comparisons of clinical variables between BPII and UP patients. The scores of the dimensions of TCI were compared among the three diagnostic groups using Kruskal–Wallis test, and thereafter, pairwise comparisons between each group were done using Mann–Whitney tests. Bonferroni method was used to correct for multiple comparisons among the three diagnostic groups. However, since the scale scores of each TCI dimension are intercorrelated and thus are not completely independent measures, we did not apply Bonferroni method for the number of TCI dimensions. Correlations between TCI scores and HDRS scores were assessed using Spearman's rank correlation coefficients. A stepwise logistic regression analysis was used in patients with BPII and UP to determine the optimal model for the prediction of BPII in depressive patients. Prediction models were developed separately for males, females, and both genders combined. The stepwise analysis was conducted as a forward stepping procedure based on a likelihood ratio test, with $p<0.05$ for variable inclusion and $p>0.2$ for exclusion from the model. Variables used as potential predictor variables were age, gender, HDRS score, and scores of 7 dimensions of TCI. Nagelkerke's R^2 was used to approximate the percent of variance explained by the model (Nagelkerke, 1991). The area under the receiver-operating characteristic (ROC) curve (AUC) was also used to determine the predictive power of the logistic model. The predicted probability with the highest Youden index was selected as the optimal cut-off point. Statistical significance was set at two-tailed $p<0.05$. Analyses were performed using the SPSS version 11.0 (SPSS Japan, Tokyo).

3. Results

Table 1 shows demographic and clinical characteristics of the subjects. Age distribution did not differ across the three diagnostic groups. Although the average years of education were significantly higher in the male controls, there was no significant difference between BPII and UP patients. Patients with BPII and UP did not differ significantly in age at onset or in HDRS scores.

The mean scores for the 7 dimensions of TCI are presented in Table 2. Three-group comparisons of BPII, UP patients, and controls revealed differences in all dimensions except for RD in both genders, P in females, and ST in males. Significantly higher HA and lower SD and C scores in BPII and UP patients compared with control subjects were observed in both males and females. Significantly higher P scores in BPII and UP patients were detected only in females. Lower NS in UP patients compared to BPII patients and healthy controls was observed only in females. ST scores in female subjects showed the opposite directions between BPII and UP patients, i.e. BPII patients scored higher and UP patients scored lower in ST compared to controls. The comparison of ST scores in female subjects between the UP patients and controls nearly reached the Bonferroni-corrected significance of $p<0.017$, and the comparisons of BPII patients with control subjects and with UP patients remained significant after Bonferroni correction.

The HDRS scores of UP patients were significantly correlated positively with P in female patients ($rho=0.327$, $p<0.05$) and negatively with SD in male patients ($rho=-0.407$, $p<0.01$). The HDRS in male BPII patient group was significantly correlated positively with C score ($rho=0.497$, $p<0.05$). No other significant correlations were found between TCI and HDRS scores.

Results of the stepwise logistic regression analysis are shown in Table 3. The Nagelkerke R^2 values show that 8.7%, 40.3%, and 24.1% of the variance are explained by the models for males, females, and both genders combined, respectively. The total AUC was significantly greater than 0.5 in models for females and for both genders combined but not for the model for males. These results indicate that the logistic regression model for female patients and for both genders combined appropriately fit the data while the model for male patients does not accurately predict BPII and UP. The following prediction model for female patients was derived:

$$Predicted\ Probability = 1/\{1 + \exp(-5.8143 + 0.129601 \times (NS\ score) + 0.20554 \times (ST\ score))\}$$

At the optimal cut-off point of 0.782 determined by the Youden index, the sensitivity and the specificity of differentiating BPII from UP were 89% and 73%, respectively.

4. Discussion

The main findings of the present study could be summarized as follows. Higher HA, lower SD, and lower C scores were observed in both BPII and UP patients when compared with controls. In females, ST scores significantly

Table 1
Demographic and clinical characteristics.

	Male				Female			
	Controls (n=153)	BPII (n=18)	UP (n=45)	Statistical difference	Controls (n=153)	BPII (n=18)	UP (n=45)	Statistical difference
Demographics								
Age, years: mean (S.D.)	35.6 (12.0)	36.1 (8.4)	34.5 (10.8)	F=0.20, p=0.82	37.3 (9.9)	36.5 (13.6)	39.0 (12.3)	F=0.52, p=0.60
Education, years: mean (S.D.)	16.7 (2.9)	16.1 (2.5)	15.5 (2.4)	F=3.5, p=0.032	15.0 (1.8)	14.7 (2.6)	14.5 (2.1)	F=1.6, p=0.21
Clinical features								
Age at onset, years: mean (S.D.)	–	28.5 (8.2)	28.1 (7.1)	t=0.19, p=0.85	–	28.0 (11.7)	30.5 (13.2)	t=0.70, p=0.49
HDRS score: mean (S.D.)	–	15.4 (4.7)	15.8 (5.9)	t=0.20, p=0.84	–	16.6 (5.4)	16.2 (5.8)	t=0.25, p=0.80

BPII: patients with bipolar disorder, UP: patients with unipolar major depressive disorder, S.D.: standard deviation, HDRS: Hamilton Depression Rating Scale.

Please cite this article as: Sasayama, D., et al., Difference in Temperament and Character Inventory scores between depressed patients with bipolar II and unipolar major depressive disorders, J. Affect. Disord. (2011), doi:10.1016/j.jad.2011.03.009

Table 2
Comparisons of TCI scores across diagnostic groups.

TCI dimension	Number of items	Gender	Mean score (S.D.)			Kruskal–Wallis test p values	Mann–Whitney test (uncorrected P values)		
			Ctrl (n=153)	BPII (n=18)	UP (n=45)		BPII vs Ctrl	UP vs Ctrl	BPII vs UP
NS	40	Male	20.8 (4.5)	19.5 (5.0)	17.7 (4.3)	<0.001	n.s.	<0.0005	n.s.
		Female	21.0 (4.5)	22.4 (6.3)	17.2 (5.0)	<0.0001	n.s.	<0.0001	0.007
HA	35	Male	17.8 (6.3)	25.4 (6.0)	28.1 (4.0)	<0.0001	<0.0001	<0.0001	n.s.
		Female	18.8 (6.0)	26.6 (4.2)	27.6 (4.9)	<0.0001	<0.0001	<0.0001	n.s.
RD	24	Male	14.7 (3.8)	14.0 (2.6)	14.5 (3.3)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
		Female	15.8 (3.3)	16.6 (3.2)	15.2 (3.2)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
P	8	Male	4.8 (1.8)	4.9 (1.7)	4.7 (1.8)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
		Female	4.1 (1.8)	5.6 (1.7)	5.2 (1.9)	<0.0001	0.001	<0.0005	n
SD	44	Male	28.3 (6.5)	18.7 (8.6)	18.8 (7.2)	<0.0001	<0.0001	<0.0001	n.s.
		Female	28.8 (6.7)	17.3 (7.1)	20.2 (7.6)	<0.0001	<0.0001	<0.0001	n.s.
C	42	Male	28.2 (5.6)	24.4 (6.3)	24.3 (5.7)	<0.0001	0.016	<0.0001	n.s.
		Female	28.9 (4.7)	24.3 (7.5)	26.0 (6.3)	0.002	0.011	0.005	n.s.
ST	42	Male	10.2 (5.0)	11.4 (6.3)	8.7 (4.1)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
		Female	11.2 (5.6)	14.9 (5.8)	9.1 (4.4)	0.002	0.009	0.046	<0.0005

Ctrl: control subjects, BPII: patients with bipolar II disorder, UP: patients with unipolar major depressive disorder, S.D.: standard deviation, NS: novelty seeking, HA: harm avoidance, RD: reward dependence, P: persistence, SD: self-directedness, C: cooperativeness, ST: self-transcendence.

differed between BPII and UP patients, with higher scores in BPII patients and lower scores in UP patients compared to controls. Patients with UP showed lower NS scores compared to controls in both genders and also to BP patients in females. BPII in depressed females could be predicted using the NS and ST scores.

Consistent with our results, several previous studies have shown higher scores on HA and lower scores on SD and C in patients with UP (Farmer et al., 2003; Hansenne et al., 1999) or in those with BP (Engstrom et al., 2004; Evans et al., 2005) compared to healthy controls. Higher NS (Evans et al., 2005; Nowakowska et al., 2005) and ST (Evans et al., 2005; Loftus et al., 2008; Nowakowska et al., 2005) have also been reported in BP patients compared to controls, though most studies comparing UP patients and controls have shown no significant difference in these two dimensions (Celikel et al., 2009; Evans et al., 2005; Farmer et al., 2003; Hansenne et al., 1999; Kimura et al., 2000; Marijnissen et al., 2002; Nowakowska et al., 2005; Smith et al., 2005). Although the comparison between BPII and UP patients showed similar trends in both genders (i.e., higher NS and ST in BPII), statistical significance between these two disorders was reached only in females. This suggests that, despite the similar tendency in both genders, the differences between diagnostic groups in TCI profiles are more evident in women than in men.

The mood state affects how the subjects describe their personality. Therefore, most previous studies on mood

Table 3
Stepwise logistic regression analyses in patients with BPII and those with UP.

Step and variable	Stepwise analysis							ROC	
	Beta	S.E.	Wald	p value	OR	95% CI	Nagelkerke R^2	AUC	95% CI
Male subjects									
Step 1									
HA	−0.12	0.06	3.8	0.05	0.89	0.79–1.00	0.09	0.61	0.45–0.78
Constant	2.18	1.60	1.8	0.18					
Female subjects									
Step 1									
ST	0.24	0.07	11.1	0.0009	1.27	1.10–1.45	0.32		
Constant	−3.70	0.93	15.7	<0.0001					
Step 2									
NS	0.13	0.06	4.4	0.04	1.14	1.01–1.29	0.40	0.83	0.72–0.95
ST	0.20	0.07	7.8	0.005	1.23	1.06–1.42			
Constant	−5.81	1.49	15.3	<0.0001					
All subjects									
Step 1									
ST	0.16	0.04	14.8	0.0001	1.17	1.09–1.28	0.19		
Constant	−2.70	0.53	26.0	<0.0001					
Step 2									
NS	0.10	0.04	5.3	0.02	1.11	1.02–1.20	0.24	0.74	0.64–0.83
ST	0.14	0.05	9.8	0.002	1.15	1.05–1.27			
Constant	−4.39	0.95	21.3	<0.0001					

S.E.: standard error, Wald: Wald statistic, OR: odds ratio, ROC: receiver-operating characteristic, AUC: area under the curve, CI: confidence interval, NS: novelty seeking, HA: harm avoidance, ST: self-transcendence.

Please cite this article as: Sasayama, D., et al., Difference in Temperament and Character Inventory scores between depressed patients with bipolar II and unipolar major depressive disorders, J. Affect. Disord. (2011), doi:10.1016/j.jad.2011.03.009

disorders assessed the personality in euthymic period. However, in order to be used as an aid for differentiating unipolar and bipolar depression in a real world clinical setting, it is required to evaluate TCI scores during depressed period. It has been reported that depressed individuals accurately portray their vulnerability to stress, their joylessness, and their lack of motivation, and that depression-caused changes in the assessed personality trait may reflect their current condition of the individual (Costa et al., 2005). Previous studies reported that severity of depression positively correlates with HA and negatively with SD scores (Farmer et al., 2003; Hansenne et al., 1999; Naito et al., 2000; Richter et al., 2000; Spittlehouse et al., 2010). In our study, however, correlation coefficients of HA and SD scores with HDRS scores did not reach statistical significance except for SD in male UP patients. This discrepancy might be due in part to the fact that we did not include patients with a HDRS score of 7 or less.

The fact that TCI scores are influenced by the severity of depression complicates the interpretation of the findings. However, the prediction model of BPII for female depressed patients in the present study is unlikely to be greatly biased by the severity of depression for several reasons. First, the mean HDRS scores were similar in BPII and UP patients. Secondly, HA and SD, which are previously reported to be influenced by depression severity, were not included in the prediction model for females. Thirdly, the correlation coefficients relating HDRS scores to each TCI score did not significantly differ between female patients with BPII and UP.

The present study is the first to use personality profiles to create a logistic regression model to predict BPII in depressed patients. Previously, Perlis, et al. (Perlis et al., 2006) made a logistic regression prediction model accurately distinguishing BP and UP by including age at onset, number of previous depressive episodes, family history, Montgomery Åsberg Depression Rating Scale (MADRS) scores, and Hamilton Anxiety Scale scores. Their model predicted bipolarity in depressed patients with a sensitivity of 69.0% and a specificity of 94.9%, with the total area under the ROC curve of 0.914. Combining their model with the present one may result in a more accurate prediction model with a wide clinical application.

A major strength of this study was that patients with BPII and UP were both in depressed state with similar severity of depressive symptoms. To our knowledge, this study is the first to compare the TCI score profiles in BPII and UP patients during depressed states. Knowing the differences in TCI profiles in their depressed states could help clinicians to predict bipolarity in depressed patients.

There are several limitations to this study. First, the cross-sectional design did not allow any definitive conclusions as to whether the TCI score profiles of the BPII and UP patients were premorbid or the results of illness onset. Whether the TCI profiles observed here can be generalized to recovered patients needs further investigation. Some UP subjects in this study may go on to experience a manic/hypomanic episode and be rediagnosed as BP, and thus follow-ups are necessary for accurate diagnosis. Secondly, the subjects were recruited through methods such as advertisements and notices, and therefore sampling biases may exist. Thirdly, bipolar patients in our study were limited to BPII. Larger studies are needed to compare the TCI scores between different subtypes of BP or UP. Fourthly, as the BPII and UP patients were limited to those receiving outpatient treatments, our subjects might have been overrepresented by milder forms of illness.

In conclusion, we assessed personality profiles in patients with BPII and UP during depressed period and confirmed that both UP and BPII patients have characteristic personality profiles in common: higher HA, lower SD, and lower C scores assessed with TCI when compared to controls. However, BPII and UP patients differ in some personality profiles, i.e., higher NS and ST in BPII than in UP patients particularly in female patients. Logistic regression analyses showed that BPII and UP could be predicted based on NS and ST scores in female patients. On the other hand, TCI scores were not very helpful for predicting BPII and UP in male patients. Our findings suggest that assessment of personality profiles using TCI in depressed female patients may serve as a useful tool to conveniently differentiate UP and BPII.

Role of funding source

Funding for this study was provided by the Intramural Research Grant for Neurological and Psychiatric Disorders of NCNP, Health and Labour Sciences Research Grants (Comprehensive Research on Disability, Health, and Welfare), JST, CREST, and "Understanding of molecular and environmental bases for brain health" carried out under the Strategic Research Program for Brain Sciences by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan (H.K.). They had no further role in study design; in the collection, analysis, and interpretation of data; in the writing of the report; and in the decision to submit the paper for publication.

Conflict of interest

The authors declare no conflicts of interest.

Acknowledgement

The authors would like to thank the participants for taking part in the study.

References

Akiskal, H.S., Mendlowicz, M.V., Jean-Louis, G., Rapaport, M.H., Kelsoe, J.R., Gillin, J.C., Smith, T.L., 2005. TEMPS-A: validation of a short version of a self-rated instrument designed to measure variations in temperament. Journal of Affective Disorders 85, 45–52.

Akiskal, H.S., Kilzieh, N., Maser, J.D., Clayton, P.J., Schettler, P.J., Traci Shea, M., Endicott, J., Scheftner, W., Hirschfeld, R.M., Keller, M.B., 2006. The distinct temperament profiles of bipolar I, bipolar II and unipolar patients. Journal of Affective Disorders 92, 19–33.

American Psychiatric Association, 1994. DSM-IV: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 4th Edition. . Washington D.C.

Celikel, F.C., Kose, S., Cumurcu, B.E., Erkorkmaz, U., Sayar, K., Borckardt, J.J., Cloninger, C.R., 2009. Cloninger's temperament and character dimensions of personality in patients with major depressive disorder. Comprehensive Psychiatry 50, 556–561.

Cloninger, C.R., Svrakic, D.M., Przybeck, T.R., 1993. A psychobiological model of temperament and character. Archives of General Psychiatry 50, 975–990.

Costa Jr., P.T., Bagby, R.M., Herbst, J.H., McCrae, R.R., 2005. Personality self-reports are concurrently reliable and valid during acute depressive episodes. Journal of Affective Disorders 89, 45–55.

de Winter, R.F., Wolterbeek, R., Spinhoven, P., Zitman, F.G., Goekoop, J.G., 2007. Character and temperament in major depressive disorder and a highly anxious-retarded subtype derived from melancholia. Comprehensive Psychiatry 48, 426–435.

Engstrom, C., Brandstrom, S., Sigvardsson, S., Cloninger, R., Nylander, P.O., 2004. Bipolar disorder: I. Temperament and character. Journal of Affective Disorders 82, 131–134.

Evans, L., Akiskal, H.S., Keck Jr., P.E., McElroy, S.L., Sadovnick, A.D., Remick, R.A., Kelsoe, J.R., 2005. Familiality of temperament in bipolar disorder: support for a genetic spectrum. Journal of Affective Disorders 85, 153–168.

Please cite this article as: Sasayama, D., et al., Difference in Temperament and Character Inventory scores between depressed patients with bipolar II and unipolar major depressive disorders, J. Affect. Disord. (2011), doi:10.1016/j.jad.2011.03.009

Farmer, A., Mahmood, A., Redman, K., Harris, T., Sadler, S., McGuffin, P., 2003. A sib-pair study of the Temperament and Character Inventory scales in major depression. Archives of General Psychiatry 60, 490–496.

Forty, L., Smith, D., Jones, L., Jones, I., Caesar, S., Cooper, C., Fraser, C., Gordon-Smith, K., Hyde, S., Farmer, A., McGuffin, P., Craddock, N., 2008. Clinical differences between bipolar and unipolar depression. The British Journal of Psychiatry 192, 388–389.

Gutierrez-Zotes, J.A., Bayon, C., Montserrat, C., Valero, J., Labad, A., Cloninger, C.R., Fernandez-Aranda, F., 2004. Temperament and Character Inventory Revised (TCI-R). Standardization and normative data in a general population sample. Actas Españolas de Psiquiatría 32, 8–15.

Hamilton, M., 1967. Development of a rating scale for primary depressive illness. The British Journal of Social and Clinical Psychology 6, 278–296.

Hansenne, M., Reggers, J., Pinto, E., Kjiri, K., Ajamier, A., Ansseau, M., 1999. Temperament and character inventory (TCI) and depression. Journal of Psychiatric Research 33, 31–36.

Hansenne, M., Delhez, M., Cloninger, C.R., 2005. Psychometric properties of the temperament and character inventory-revised (TCI-R) in a Belgian sample. Journal of Personality Assessment 85, 40–49.

Hirano, S., Sato, T., Narita, T., Kusunoki, K., Ozaki, N., Kimura, S., Takahashi, T., Sakado, K., Uehara, T., 2002. Evaluating the state dependency of the Temperament and Character Inventory dimensions in patients with major depression: a methodological contribution. Journal of Affective Disorders 69, 31–38.

Hirschfeld, R.M., Lewis, L., Vornik, L.A., 2003. Perceptions and impact of bipolar disorder: how far have we really come? Results of the national depressive and manic-depressive association 2000 survey of individuals with bipolar disorder. The Journal of Clinical Psychiatry 64, 161–174.

Kijima, N., Saito, R., Takeuchi, M., Yoshino, A., Ono, Y., Kato, M., Kitamura, T., 1996. Cloninger's seven-factor model of temperament and character and Japanese version of Temperament and Character Inventory (TCI) Article in Japanese Archives of Psychiatric Diagnostics and Clinical Evaluation 7, 379–399.

Kijima, N., Tanaka, E., Suzuki, N., Higuchi, H., Kitamura, T., 2000. Reliability and validity of the Japanese version of the Temperament and Character Inventory. Psychological Reports 86, 1050–1058.

Kimura, S., Sato, T., Takahashi, T., Narita, T., Hirano, S., Goto, M., 2000. *Typus melancholicus* and the Temperament and Character Inventory personality dimensions in patients with major depression. Psychiatry and Clinical Neurosciences 54, 181–189.

Loftus, S.T., Garno, J.L., Jaeger, J., Malhotra, A.K., 2008. Temperament and character dimensions in bipolar I disorder: a comparison to healthy controls. Journal of Psychiatric Research 42, 1131–1136.

Lovdahl, H., Boen, E., Falkum, E., Hynnekleiv, T., Malt, U.F., 2010. Temperament and character in patients with bipolar II disorder and recurrent brief depression. Comprehensive Psychiatry 51, 607–617.

Marijnissen, G., Tuinier, S., Sijben, A.E., Verhoeven, W.M., 2002. The temperament and character inventory in major depression. Journal of Affective Disorders 70, 219–223.

Matsudaira, T., Kitamura, T., 2006. Personality traits as risk factors of depression and anxiety among Japanese students. Journal of Clinical Psychology 62, 97–109.

Mendlowicz, M.V., Akiskal, H.S., Kelsoe, J.R., Rapaport, M.H., Jean-Louis, G., Gillin, J.C., 2005. Temperament in the clinical differentiation of depressed bipolar and unipolar major depressive patients. Journal of Affective Disorders 84, 219–223.

Mitchell, P.B., Wilhelm, K., Parker, G., Austin, M.P., Rutgers, P., Malhi, G.S., 2001. The clinical features of bipolar depression: a comparison with matched major depressive disorder patients. The Journal of Clinical Psychiatry 62, 212–216 quiz 217.

Nagelkerke, N., 1991. A note on a general definition of the coefficient of determination. Biometrika 2.

Naito, M., Kijima, N., Kitamura, T., 2000. Temperament and Character Inventory (TCI) as predictors of depression among Japanese college students. Journal of Clinical Psychology 56, 1579–1585.

Nowakowska, C., Strong, C.M., Santosa, C.M., Wang, P.W., Ketter, T.A., 2005. Temperamental commonalities and differences in euthymic mood disorder patients, creative controls, and healthy controls. Journal of Affective Disorders 85, 207–215.

Otsubo, T., Tanaka, K., Koda, R., Shinoda, J., Sano, N., Tanaka, S., Aoyama, H., Mimura, M., Kamijima, K., 2005. Reliability and validity of Japanese version of the Mini-International Neuropsychiatric Interview. Psychiatry and Clinical Neurosciences 59, 517–526.

Pelissolo, A., Lepine, J.P., 2000. Normative data and factor structure of the Temperament and Character Inventory (TCI) in the French version. Psychiatry Research 94, 67–76.

Perlis, R.H., Brown, E., Baker, R.W., Nierenberg, A.A., 2006. Clinical features of bipolar depression versus major depressive disorder in large multicenter trials. The American Journal of Psychiatry 163, 225–231.

Richter, J., Eisemann, M., Richter, G., 2000. Temperament and character during the course of unipolar depression among inpatients. European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience 250, 40–47.

Sheehan, D.V., Lecrubier, Y., Sheehan, K.H., Amorim, P., Janavs, J., Weiller, E., Hergueta, T., Baker, R., Dunbar, G.C., 1998. The Mini-International Neuropsychiatric Interview (M.I.N.I.): the development and validation of a structured diagnostic psychiatric interview for DSM-IV and ICD-10. The Journal of Clinical Psychiatry 59 (Suppl. 20), 22–33 quiz 34–57.

Smith, D.J., Duffy, L., Stewart, M.E., Muir, W.J., Blackwood, D.H., 2005. High harm avoidance and low self-directedness in euthymic young adults with recurrent, early-onset depression. Journal of Affective Disorders 87, 83–89.

Spittlehouse, J.K., Pearson, J.F., Luty, S.E., Mulder, R.T., Carter, J.D., McKenzie, J.M., Joyce, P.R., 2010. Measures of temperament and character are differentially impacted on by depression severity. Journal of Affective Disorders 126, 140–146.

Tabuse, H., Kalali, A., Azuma, H., Ozaki, N., Iwata, N., Naitoh, H., Higuchi, T., Kanba, S., Shioe, K., Akechi, T., Furukawa, T.A., 2007. The new GRID Hamilton Rating Scale for Depression demonstrates excellent inter-rater reliability for inexperienced and experienced raters before and after training. Psychiatry Research 153, 61–67.

Please cite this article as: Sasayama, D., et al., Difference in Temperament and Character Inventory scores between depressed patients with bipolar II and unipolar major depressive disorders, J. Affect. Disord. (2011), doi:10.1016/j.jad.2011.03.009

Schizophrenia Bulletin Advance Access published November 1, 2010

Schizophrenia Bulletin
doi:10.1093/schbul/sbq118

Resequencing and Association Analysis of the *KALRN* and *EPHB1* Genes And Their Contribution to Schizophrenia Susceptibility

Itaru Kushima[1,2], Yukako Nakamura[1,2], Branko Aleksic[1,2], Masashi Ikeda[2,3], Yoshihito Ito[1,2], Tomoko Shiino[1,2], Tomo Okochi[2,3], Yasuhisa Fukuo[2,3], Hiroshi Ujike[4], Michio Suzuki[2,5], Toshiya Inada[6], Ryota Hashimoto[2,7,8], Masatoshi Takeda[7,8], Kozo Kaibuchi[2,9], Nakao Iwata[*,2,3], and Norio Ozaki[1,2]

[1]Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan; [2]Core Research for Evolutional Science and Technology, Japan Science and Technology Corporation, Tokyo, Japan; [3]Department of Psychiatry, School of Medicine, Fujita Health University, Toyoake, Aichi 470-1192, Japan; [4]Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Okayama University, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan; [5]Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, Toyama University, Toyama, Japan; [6]Seiwa Hospital, Institute of Neuropsychiatry, Tokyo, Japan; [7]Molecular Research Center for Children's Mental Development, United Graduate School of Child Development, Osaka University, Kanazawa University and Hamamatsu University School of Medicine, Osaka, Japan; [8]Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Osaka University, Osaka, Japan; [9]Department of Cell Pharmacology, Graduate School of Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan

[*]To whom correspondence should be addressed; tel: +81-562-93-9250; fax: +81-562-93-1831, e-mail: nakao@fujita-hu.ac.jp

Background: **Our genome-wide association study of schizophrenia found association signals at the Kalirin gene (*KALRN*) and EPH receptor B1 gene (*EPHB1*) in a Japanese population. The importance of these synaptogenic pathway genes in schizophrenia is gaining independent supports. Although there has been growing interest in rare (<1%) missense mutations as potential contributors to the unexplained heritability of schizophrenia, there are no population-based studies targeting rare (<1%) coding mutations with a larger effect size (eg, OR >1.5) in *KALRN* or *EPHB1*. *Methods and Results:*** **The present study design consisted of 3 phases. At the discovery phase, we conducted resequencing analyses for all exon regions of *KALRN* and *EPHB1* using a DNA microarray–based method. Seventeen rare (<1%) missense mutations were discovered in the first sample set (320 schizophrenic patients). After the prioritization phase based on frequencies in the second sample set (729 cases and 562 controls), we performed association analyses for each selected mutation using the third sample set (1511 cases and 1517 controls), along with a combined association analysis across all selected mutations. In *KALRN*, we detected a significant association between schizophrenia and P2255T (OR = 2.09, corrected *P* = .048, 1 tailed); this was supported in the combined association analysis (OR = 2.07, corrected *P* = .006, 1 tailed). We found no evidence of association of *EPHB1* with schizophrenia. *In silico* analysis indicated the functional relevance of these rare missense mutations.** ***Conclusion:*** **We provide evidence that multiple rare (<1%) missense mutations in *KALRN* may be genetic risk factors for schizophrenia.**

Key words: synaptogenic pathway/rare missense mutations/GWAS/Japanese population

Introduction

Schizophrenia is a genetically heterogeneous disorder with heritability estimated at up to 80%.[1] According to a recent simulation based on genome-wide association study (GWAS) datasets, a highly polygenic model involving a number of common variants of very small effect may explain more than one-third of the total variation in risk of schizophrenia.[2] On the other hand, interest has been growing in rare variants as potential contributors to the unexplained heritability of schizophrenia.[3] This is partly triggered by recent studies establishing an important role for rare genomic copy number variants (CNVs) in the etiology of schizophrenia.[4] Another potential genetic variation to explain the remaining heritability is rare missense mutations. Kryukov et al[5] reported that ~20% of new (de novo) missense mutations in humans result in a loss of function, whereas ~53% have mildly deleterious effects and ~27% are effectively neutral with respect to phenotype by a combined analysis of mutations causing human Mendelian diseases, mutations driving human-chimpanzee sequence divergence, and systematic data on human genetic variation. Their results were supported by an independent study.[6] Because the pressure of purifying selection acting on the mildly deleterious mutations is weak, their cumulative high frequency in the human population is being maintained

by "mutation-selection balance." This provides support to a speculation that the accumulation of mildly deleterious missense mutations in individual human genomes can be a genetic basis for complex diseases.[5] The importance of rare missense mutations in schizophrenia is demonstrated by a study of the *ABCA13* gene in which multiple rare (<1%) coding variants were associated with schizophrenia.[7]

We recently performed a GWAS for schizophrenia in a Japanese population.[8] Although single locus analysis did not reveal genome-wide support for any locus, a shared polygenic risk of schizophrenia between the Japanese and the Caucasian samples was confirmed. In our GWAS, association signals were detected at the regions of the Kalirin gene (*KALRN*) on 3q21.2 and the EPH receptor B1 gene (*EPHB1*) on 3q21-q23, both of which are in the same synaptogenic pathway[9] (supplementary figure S1). Associations of each gene with schizophrenia have recently received support from independent GWASs in different populations.[10,11] Furthermore, a rare de novo CNV overlapping with the *EPHB1* gene locus was detected in a patient with schizophrenia.[12]

KALRN is a large neuronal dual Rho guanine nucleotide exchange factor (GEF) that activates small guanosine triphosphate–binding proteins of the Rho family, including Rac1.[13] This activation enables KALRN to regulate neurite initiation, axonal growth, dendritic morphogenesis, and spine morphogenesis. Consistent with its biological function, KALRN is a key factor responsible for reduced densities of dendritic spines on pyramidal neurons in the dorsolateral prefrontal cortex (DLPFC)[14] observed in postmortem brains from schizophrenic patients. The messenger RNA expression level of *KALRN* is significantly reduced in DLPFC of patients with schizophrenia and strongly correlated with spine density.[15] In addition, *KALRN*-knockout mice not only exhibit spine loss and reduced glutamatergic transmission in the frontal cortex but also schizophrenia-like phenotypes including robust deficits in working memory, sociability, prepulse inhibition, and locomotor hyperactivity reversible by clozapine, an atypical antipsychotic.[16] These synaptic and behavioral dysfunctions are apparent during young adulthood in mice (12 weeks old), which coincides with the onset of schizophrenia in patients. Notably, Disrupted-in-Schizophrenia 1, a prominent schizophrenia risk factor, was shown to be involved in the maintenance of spine morphology and function by regulating access of KALRN to Rac1.[17] *EPHB1* belongs to a receptor tyrosine kinase family and controls multiple aspects of neuronal development, including synapse formation and maturation, as well as synaptic structural and functional plasticity. In neurons, activation of EphB receptors by its ligand B-type ephrins induces the rapid formation and enlargement of dendritic spines, as well as rapid synapse maturation. One of the downstream effectors of ephrinB/EphB signaling is KALRN. In young hippocampal neurons, KALRN is reported to play an important role in the maturation of synapses induced by trans-synaptic ephrinB/EphB signaling.[18]

According to the above-mentioned study,[5] most missense mutations with a frequency of <1% are mildly deleterious, indicating that a low frequency of missense mutation per se can serve as a strong predictor of a deleterious effect of variants. Therefore, the working hypothesis of the present study is that rare (<1%) missense or nonsense mutations with a larger effect size (eg, OR >1.5) in *KALRN* and *EPHB1* may be genetic risk factors for schizophrenia. Recently, a DNA microarray–based resequencing method has been developed to enable accurate and rapid resequencing analysis of candidate genes.[19] Using this system, we conducted resequencing analyses for all exon regions of *KALRN* and *EPHB1* in 320 schizophrenic patients and found evidence that rare (<1%) missense mutations in *KALRN* are significantly associated with schizophrenia using the 3-phase study design.

Methods and Materials

Subjects

Three sample sets were used in this study. The first sample set, comprising 320 schizophrenic patients (mean age, 54.2 ± 14.1 years, 49.1% male), with long-term hospitalization for severe symptoms, was used to search for rare missense or nonsense mutations. We used the first sample set for mutation screenings because patients with extreme phenotypes (severe symptoms) can be expected to carry more deleterious mutations.[20] The second sample set, including 729 cases (45.4 ± 15.1 years, 52.2% male) and 562 controls (44.0 ± 14.4 years, 49.8% male), was used to prioritize detected functional variants for subsequent association analyses. The third sample set, including 1511 cases (45.9 ± 14.0 years, 49.6% male) and 1517 controls (46.0 ± 14.6 years, 49.6% male), was used for association analyses. Age and gender were matched in the second and third sample sets, respectively. All patients were diagnosed according to *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition*, criteria, and controls were evaluated using unstructured interviews to exclude individuals with history of mental disorders. Detailed information regarding diagnostic procedures is available elsewhere.[21] All subjects were ethnically Japanese and provided written informed consent. This study was approved by the ethics committees at each participating university.

Array Design for Resequencing Analyses

We used the Affymetrix GeneChip CustomSeq Resequencing Array (Affymetrix, Santa Clara, California) for exon sequencing in the first sample set. These arrays rely on allele-specific hybridization for determining DNA